



サザンカ

Power Alliance Tax Accountant Office  
**パワーアライアンス税理士法人**

News

編集発行人

パワーアライアンス税理士法人  
 税理士 若杉 治

〒151-0073  
 東京都渋谷区笹塚3-37-1  
 第1花井ビル2F  
 TEL 03 (5365) 4744(代)  
 FAX 03 (5365) 4745  
 E-mail info@wakasugi.zei-mu.net

◆ 11月の税務と労務

11月

(霜月) NOVEMBER

3日・文化の日 23日・勤労感謝の日

- 国 税 / 10月分源泉所得税の納付 11月10日
- 国 税 / 所得税予定納税額の減額承認申請  
11月15日
- 国 税 / 所得税予定納税額第2期分の納付 11月30日
- 国 税 / 9月決算法人の確定申告(法人税・消費税等)  
11月30日
- 国 税 / 12月、3月、6月決算法人の消費税等の中間  
申告(年3回の場合) 11月30日
- 国 税 / 3月決算法人の中間申告 11月30日
- 国 税 / 個人事業者の消費税等の中間申告(年3回  
の場合) 11月30日
- 地方税 / 個人事業税第2期分の納付  
都道府県の条例で定める日

日	月	火	水	木	金	土
.	.	1	2	3	4	5
6	7	8	9	10	11	12
13	14	15	16	17	18	19
20	21	22	23	24	25	26
27	28	29	30	.	.	.

※税を考える週間 11月11日～11月17日

ワン  
ポイント

「株主リスト」が登記の添付書面に 本年10月1日以降の株式会社の登記の申請では、登記事項について株主総会決議が必要な場合(例えば役員変更の登記)には、従来の株主総会議事録に加えて、主要株主の氏名・住所・株式数等を代表者が証明した書類である「株主リスト」を添付することになっていますので注意が必要です。

## 通知開始から1年

昨年10月に通知が始まったマイナンバーですが、平成29年には情報提供等記録開示システム(マイナポータル)の導入が始まる予定です。平成28年分の源泉徴収票や給与支払報告書を税務署や市町村に提出するとき、平成28年分の確定申告をするときなど、これから年末や年度末にかけてマイナンバーを記載する書類を役所に提出する機会が増えてきます。

## マイナンバーとは

マイナンバー(個人番号)は、すべての国民にそれぞれ一つずつ割り当てられた12桁の番号です。昨年10月ごろから、マイナンバーが記載された通知カードが、世帯ごとに一括して送られました。

マイナンバーは、年金の資格取得や確認、税務当局に提出する確定申告書や届出書、災害が発生した時の被災者生活再建支援金の給付など、行政手続きに使用します。

## 利用する場面

マイナンバーは、社会保障や税の行政手続きに利用されます。そのため、様々な場面でマイナンバーの提示を求められます。

給与や退職金を受け取る人や雇用保険などの資格を取得する人は、勤務先に対してマイナンバーを提示します。また、報酬や講演料などを受け取る人は、契約先の企業などに提示します。

# マイナンバー

1234	5678	9012
2345	6789	0123
3456	7890	1234
4567	8901	2345
5678	9012	3456
6789	0123	4567
7890	1234	5678
8901	2345	6789
9012	3456	7890
0123	4567	8901
1234	5678	9012
2345	6789	0123
3456	7890	1234
4567	8901	2345
5678	9012	3456
6789	0123	4567

これらは、マイナンバーが導入されるときに紹介されていきましたので、ご存知の方も多いと思います。

それ以外には、不動産業者や法人から、年間で100万円を超える不動産譲渡の対価や年間15万円を超える不動産仲介料や不動産使用料を受け取る人は、不動産業者などに提供します。また、金融機関で株や投資信託などの証券取引をする人などは、金融機関に提示します。

## マイナンバーカード

個人番号カード(いわゆるマイナンバーカード)は、4つの方法で取得することができます。

通知カードには、個人番号カード交付申請書が付いています。この交付申請書に必要な事項を記入し写真を貼りつけて、同封されている返信用封筒で返送することで、交付申請ができます。ただし、通知カードを受け取った日以降に引っ越しを

された方は、この方法で申請することができません。

パソコンで申請する場合は、交付申請用のWEBサイトにアクセスし、画面の案内にしたがって必要事項を記入し、デジタルカメラなどで撮影した顔写真を添付して送信することで、交付の申請をすることができます。この場合、交付申請書に記載されている申請書IDの入力が必要です。

スマートフォンで写真を撮影した場合、そのスマートフォンで交付申請書に印字されているQRコードを読み込んで申請用WEBサイトにアクセスします。パソコンと同様に必要事項を入力し、顔写真の画像データを添付して送信します。

街なかに設置されている証明用写真機には、マイナンバーカードの申請に対応しているものもあります。この証明用写真機で申請する場合もスマートフォンのときと同様に、交付申請書に印字されているQRコードを写真機に読み込ませて申請します。

## マイナポータル

マイナポータルは、行政機関でマイナンバーの付いた自分の情報がやりとりされた記録や、行政機関が保有している自分に関する情報を確認することができるシステムです。社会保険料の支払金額や確定申告を行うときに参考となる情報を確認したり、引っ越しなどのときに行政機関への手続きが一度で済むといった機能が備わっています。

# Suica

ICOCA PiTaPa TOICA PASMO nimoca Kitaca SUGOCA はやかけん manaca

## 誕生から15年

2001年11月18日に、東京圏の424駅で一齐にSuicaが導入されました。それから15年が経ち、北は北海道の「Kitaca」から南は九州の「SUGOCA」まで、全国で10種類の交通系カードが発行されています。2013年には、これら10種類の交通系カードの相互利用が始まり、全国におよそ9,000ある駅のうち半数近くの駅の自動改札機を、1種類のカードで通過できるようになりました。

## 開発の経緯

1980年代後半に、次世代のカードとしてICカードが注目されるようになりました。ICカードは、従来の磁気式カードと比べて記憶できる容量が100倍以上ありました。ただし、カード1枚の価格が1万円以上と高額で、実用化はまだまだ先だと考えられていました。

このICカードを鉄道で活用しようとする研究グループがありました。現在の公益財団法人鉄道総合技術研究所です。1960年代に導入された磁気式自動改札機によって、それまではパスケースの中の定期券を駅係員に見せるだけだったのが、定期券をパスケースから出して→改札機を通し→パスケースにしまう、という動作が必要になりました。

（財）鉄道総合技術研究所は、ICカードによってパスケースに定期券を入れたまま自動改札機を通ることや切符を買わずに電車に乗ることができるシステムの構築を目指しました。

## カードの種類

ICカードはデータの通信方式として、「接触式」と「非接触式」があります。接触式は、カード端末機の端子とカードを直接接触させて通信を行うもので、堅牢なセキュリティが求められる決済などの分野で使われています。一方、非接触式は、カード内部にアンテナの役目を果たすコイルが内蔵されていて、カード端末機から発生している磁界にカードをかざすと無線通信でデータのやり取りを行います。

またICカードのデータの読み書きの方法として、「リードオンリー（読み込み専用）カード」と「リードライトカード」があります。リードオンリーカードとは、そのカードの固有番号（ID）を読み込み、その都度メインコンピュータとやり取りする仕組みです。リードライトカードは、データの読み出しと書き込みを端末からカードに直接行います。

開発当時、非接触式のリードライトカードは実用化されていませんでした。ただ、パスケースに定期券を入れたまま自動改札機を通

過することやラッシュ時に膨大なデータ処理が行われることから、非接触式のリードライトカードが不可欠だと考え、高速でリードライトできるカードの開発が進められました。

## 実用化に向けて

1994年にはICカード型の自動改札機を使ったフィールド試験が行われました。カード読み取り機の通信エリアの形状やカードに内蔵された電池が引き起こす異状によって、ICカードと読み取り機の通信処理がなかなかうまくいきませんでした。これらの問題は、読み取り機の通信エリアをラグビーボール型から半球型に変更し、カード内蔵電池をやめて改札機から無線で電源を供給することで解決されました。

ところが、無線で電源を供給するためには、通信時間を十分に確保する必要があります。そこで、カードを改札機に「かざす」のではなく「触れて」もらうようにしました。

ちょうどこのころ、磁気式自動改札機の更新の時期が近づいていたため、次の自動改札機を磁気式にするかICカード式にするかの検討が行われていました。フィールド試験の結果を踏まえ、2001年にICカード式出改札システムの導入が決まりました。



## データサイエンティスト

通信機器などの発達やネットサービスの普及によって、収集・蓄積されるデータの種類や量が急増しています。この収集・蓄積されたデータ（ビッグデータ）を様々な場面で活用する動きが数年前から広がっていますが、ビジネスに活用するための知見を引き出す人材として、「データサイエンティスト」が注目されています。

データサイエンティストとは、企業が収集・蓄積したものの不完全で整理されていない膨大なデータを、統計学やデータ分析などを駆使して整理し、企業が活用できるような情報にする仕事といわれていますが、明確な定義はないようです。データサイエンティストが対応する領域が広いこともあり、データサイエンティストに期待されている役割とその人のスキルとがマッチせず、思ったような成果を得ることができないといった課題や、その人の能力や経験を

十分に活かすことができないといった状況が生まれています。また、データサイエンティストを目指す人にとっても、自分のレベルや必要なスキルがわからないといった問題もあるようです。

このような現状を踏まえて、2013年に一般社団法人データサイエンティスト協会が発足しました。この協会では、データサイエンティストを育成するために、技能要件の定義や標準化を推進する、レベル認定をするといった活動を行っています。2015年には、データの分析や活用で成果を上げている組織を表彰する「データサイエンスアワード」を開設しました。このとき最優秀賞に選ばれた全日本食品株式会社は、顧客一人一人に対して個別にチラシを出す「あなただけのお得なサービス」を行っています。これは、顧客の購買履歴データを基に普段よく買っているものを安くするというサービスです。

参考：一般社団法人データサイエンティスト協会HP

## マッチングギフト

企業などが社会貢献のために寄付を募る際に、集まった寄付金に対して募集企業がお金を上乗せし金額を増やしたうえで寄付をする制度を、マッチングギフトといいます。東日本大震災のときに、企業が被災者を支援する取り組みとして拡がり、今年四月の熊本地震の際にもトヨタ自動車など多くの企業が実施しました。

東日本大震災よりも前にこの取り組みを実施していた企業もあります。例えば、キューピーが実施しているマッチングギフト制度の「QPeace（キューピース）」は、参加を希望する従業員から毎月百円を一口として給与から天引きをし、会社も同額を上乗せして寄付を行っています。支援する団体については、従業員からなるプロジェクトメンバーと事務局で審査をして、決定しているようです。

## マイクロプラスチック

プラスチックは、熱を加えたり太陽の光を当てたりすると砕けやすくなります。最近、細かく砕けたプラスチックのゴミが問題になっています。

研究者によって多少の違いはありますが、大きさが5mm以下のプラスチックをマイクロプラスチックといいます。ここでの「マイクロ」は、非常に小さいという意味で使われています。

マイクロプラスチックは、有害物質を吸着させるという特徴を持っています。このマイクロプラスチックを植物プランクトンと間違えて動物プランクトンが食べていることが報告されています。

この動物プランクトンを魚が食べることで、海の生き物全体にマイクロプラスチック汚染が拡がるのが懸念されていますが、マイクロプラスチックは沖合に拡がりやすい性質があり、実態を把握するのはかなり困難なようです。